

3. 本事業の取り組みの経緯と到達点

(1) 取組み全体の流れ

本事業を取り組むに当たって、飯豊町の受入態勢の整備、日通の協力体制の整備、共同企画の開発・整備、実験検証体制の整備、の4項目を課題としてあげた。これらを一つ一つクリアすべく取り組んできた。主なものをあげれば次のとおりである。

ア 飯豊町の受入態勢の整備

この課題で最も重要なことが、第一に、飯豊町全体での意識醸成と推進主体の確立である。そのために、町民誰もが飯豊町を説明できるなど、町全体で家族を迎えるという物心両面での広報・検討会議、グリーン・ツーリズム推進のためのシンポジウム・講演会の開催、先進コミュニティビジネス地域等視察・研究、などを行うこととした。

また、有識者(飯豊町と企業の都市生活者)と参加機関共同での意見調整会議を日常的に行うことができるグリーン・ツーリズム推進協議会や運営委員会を設立して推進に当たった。これらにより町内にグリーン・ツーリズムの浸透と定着を図るとともに、農家の副業・ベンチャービジネスとしての意識も備わることも目指した。

第二に、宿泊施設・宿泊および食事料金体系の整備である。町内にある宿泊施設(温泉旅館3、コテージ1、民泊3、キャンプ5等)の利用促進を図るため、収容・受入人数調整、宿泊と食事料金の別立ての検討、宿食の場合の時間設定の廃止検討、



提携農家レストランでの食事料金の設定などの検討を行った。また、低価格・割引料金の検討など料金体系の検討も行った。

第三に、参観・参加型イベント・体験メニューの開発・整備の課題である。飯豊町には、参観・参加型イベントとして次のようなものがある。

4月：諏訪神社春祭り・山之神神社春祭り。

5月：若宮八幡神社春祭り・赤若薬師堂祭り・全国白川ダム湖畔マラソン大会。

6月：くろべこまつり・高畑山神神社祭り・しらさぎ荘温泉まつり。

7月：山之神神社例祭・熊野神社例祭・松岡山文殊例祭・天狗山祭り・夏の雪祭り(SNOW エッグフェスティバル)。

8月：獅子踊り・諏訪神社祭・岡八幡神社祭・湧沼神社例祭・薬師堂念仏踊り・添川温泉ふるさとまつり・八幡神社例祭・赤岩薬師堂念仏踊り・禅定院虫干し・羽黒神社祭り。

9月：若宮八幡神宮例祭・高畑山神社例祭・めざみの里まつり・八幡神社夜祭・巫女舞・赤岩薬師堂祭り。

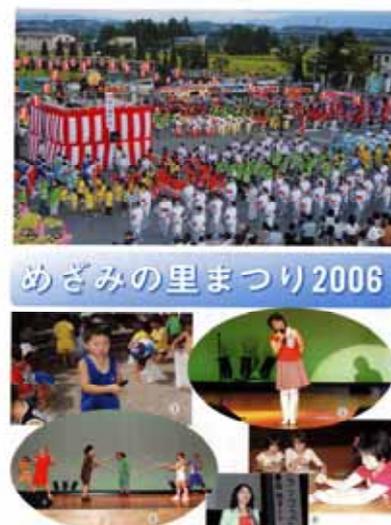
11月：新酒(どぶろく)発表会・スワンパーク白鳥飛来・秋の収穫祭・めざみの里音楽祭・森林の萌芽更新見学会。

1月：諏訪神社元旦祭・熊野神社元旦祭。

2月：中津川雪祭り・雪のお城で晚餐会&スノーモービル。

3月：高畑山神社例祭。

これら既存行事の日程見直し、体験型メニューとの相互乗り入れ・組合せの検討(体験を通してまつりの意味が理解できる、など)、単独イベント体験メニューの開発と料金設定(自由に選択、参加できるイベント)、複合体験メニューの開発と料金設定(単体イベントを複合的に組み合わせたパック)などの検討を行ってきた。



第四に、町内の移動手段の整備である。飯豊

町は南北に広がる中山間地で、上記イベント会場、その他ゆり園など観光施設が広域に点在している。「町全体が1軒のふるさと家族」の発想からすれば、イベント等に参加する親子各々単独行動をしても安心、安全を確保する必要がある。

このため、各施設への移動手段として、コミュニティーバスでの巡回、第三セクターの業務用自動車による送迎ルール化、参加者がどこにいるかわかる仕組み、情報システム整備などの検討を行った。電動自転車による移動実験も行った。

第五に、リピート推進策の構築である。そのためには、「また来たい」と思わせる「ここにしかない」何かを創ることが重要である。たとえば、山村と都市の相互情報交換の部屋の設置、この他、町と参加企業から研究会員を募り、あるいは学識経験者、消費者、余暇研究者などにより、共生・対流のあるべき姿、リピート推進方法等の検討の企画も立てた。

イ 日通の協力体制の整備、共同企画の開発・整備

第一に、社内の意識醸成の問題である。まずできることとしては、社内への社会実験内容の通知・徹底(年休取得推進)、関連部門との折衝、社内およびお客様へのアピール(本社ビルロビーに飯豊町モニターテレビ設置)などがある。なかでも関連部門との折衝でクリアできれば、方向付ける条件が飛躍的に広がる。

労働組合の場合には、年休取得推進、家族といく労組リクリエーションとしての活用ができ、また、2学期制の学校の子供を持つ親に対し「秋休み」年休取得の推進にもつながる。健康保険組合の場合には、飯豊町の各宿舎との特定保養所契約などが可能となれば、健保組合員:本人65,000+扶養家族74,000人計139,000人(うち約40%が首都圏)がお客様となる。

第二に、参加者募集の課題である。飯豊町の美しい景観のアピール、散居集落を中心にした写真展、米沢牛と郷土料理のアピール、社員食堂で米沢牛と郷土料理試食会、山里生活をアピール、語り部による昔話(写真展会場で)などの日通(東京)でのデモンストレーションを実施することや、シンポジウムなど継続的な意識醸成の場を設定することで、トライアル・ツアーの参加者を募ることを検討した。

第三に、商品インフラの整備およびIT管理商品企画化(バーチャル・サロン)の課題である。基本的に、次の具体的な課題をIT化する方向で検討した。

「企業ふるさと」商品の情報提供方法、イベント等参加申込方法(旅行前、当日現地でも簡単に)、参加証(ICカード)の発行場所とタイミング、イベント等参加時の認証方法(今子供がどこで何をしているかがわかるなど含め)、宿泊施設利用の認証方法、レストラン・物産店利用の認証方法、産直宅配利用の認証方法、利用代金の決済方法(旅行、体験、購入全てをe-決済できるか)、リピートを促す手段、(母からの手紙みメルマガ、あなたの植えたxxの育成ライブ映像と収穫時期案内等)、物産品の通信販売(遠隔な台所と生産現場を直結する仕組み)、ブログによる情報交換の場(家庭、宿泊先、イベント会場のパソコンから)、中西地区発信の「おやかた通信」など。

第四に、宅配・物販扱い商品企画化の課題である。荷物なしで手軽に出かけられる新モデルの構築、農業体験で栽培した農作物の産地直送の新モデル構築、また、日通のコンシューマーサービス会社での農産物・加工品など店舗販売(首都圏)の可能性の追求、などの課題がある。

以上の課題を個別具体的に取組んだもの、具体的な取組みのなかに織り込んで取組んだものもあった。以下にその取組みと成果を述べる。

(2) トライアル・ツアーの取組みと到達点

上記の課題を検討・整備しながら、もっとも力を入れて取組んだ一つがトライアル・ツアーである。基本料金19,800円(子ども18,000円)で4回実施した。4回のツ

アーをとおして161名の参加者があった。受け入れ側の協力者約120名を合わせれば、延べ約280名の参加者になる。取り組みの具体的内容と成果は次のとおり。

	実施日	参加者	メニュー
春	平成18年5月14日(日) ～ 5月16日(火)	38名 (内訳) プロジェクト事務局5名、 自らの参加意思をもって 応募した者は推定5名程 度、学生1名、その他約 27名は社会実験遂行上 の業務指示により参加。	1日目: 飯豊町到着後、歓迎もちつき大会 (昼食) - 「ゆり園展望台」まで散策 し田園散居集落展望 - ひまわり種 まき体験もしくは花の寄植え体験 いずれかへ - 夕食後、「語り部の 会」による郷土の民話。 2日目: 体験農場で田植え体験もしくは野 菜作り体験 - 圃場付近でふきのとう よもぎ、たららの芽の山菜取り(昼食 のてんぷら用) - 夕食はGT協議会 メンバーを囲んで飯豊産米沢牛で バーベキュー。 3日目: 「日通の社」散策コースまたは「源 流の森」体験コースのオプションル ツアー - 物産館(道の駅)にて各自 昼食 - いちごの摘み取り - 解散式
夏	平成18年7月29日(土) ～ 7月31日(月)	39名 (内訳) 成人29名、小学生10名。 家族参加8家族(20名)、 単独参加19名。 東京近郊からの参加は 32名、仙台6名、山形1 名。	1日目: 飯豊町到着後、歓迎もちつき大会 (昼食) - 田園散居集落を展望後、 「とんでんゆり園」まで散策 - 中津 川地区へ移動 - 雪室見学 - 夕食 後、真夏の雪遊びと花火大会見物。 2日目: 夏の田んぼの草刈りと野菜のもぎ とり、または芋掘りとそば打ちの2 コースに分かれて体験 - カブト虫や クワガタを集めるための仕掛け作り - 夕食は飯豊町の人々と懇親バー ベキュー - 子供向け星空観察と 街頭昆虫とり。 3日目: 「日通の社」で社員・大人向けに 下草刈りなど森林ボランティア体験、 子供向けに昆虫採取・生き物観察 - 川遊び、温泉など自由行動 - 日通 ひまわり農場にて生育状況観察 - 物産館にて各自昼食 - 解散式
秋	平成18年10月8日(日) ～ 10月10日(火)	47名 (内訳) 日通グループ社員35名、社 員家族2名、東京農工大職 員1名、学生男性2名、中学 生2名、小学生4名、幼児女 児1名。 家族参加6家族(16名)、単 独参加31名。	1日目: 飯豊町到着後体験農園へ - 歓迎式 の後芋掘り体験(春に植えた里芋の 収穫)またはそば打ち体験 - 夕食。 2日目: 午前6つの圃場に分かれ稲刈り 体験と農家の昼食体験 - 午後は引き 続き稲刈り、または源流の森散策、 またはひまわりの種収穫と油搾り、ま たは白川荘周辺の自由散策の4コース から選択し体験 - GT協議会メンバ ーらと歓迎夕食会。 3日目: 芋煮会(会場設営 - 調理、芋煮と 新米のおにぎりで昼食) - 物産館に て買い物 - 解散式。
冬	平成19年2月9日(金) ～ 2月11日(日)	37名 (内訳) 日通グループ社員27名、そ の家族3名、新聞記者1名、 東京農工大学職員1名、小 学生4名、幼児1名。 家族参加7家族(15名)、単 独参加22名。	1日目: 飯豊町到着後、歓迎もちつき大会 - 語り部の会による昔話し3話 - 夕食。 2日目: 3班に分かれ雪国の農業・農村体験 (春ツアー時に植えた大豆を使って味 噌や豆腐作りと郷土料理体験、「かん じき」を履いて茅を使った雪中行事 作り(夜のイベント用)体験、中西地区 で田んぼの田舎くらし体験) - 中津川 地区の民家で「すげ笠」(花笠踊り用) 作り体験 - GT協議会メンバーらと 交流夕食会後全員で花笠踊り体験 - 参加者の無病息災・商売繁盛を祈念 して「さいぞう笑い(どんと焼き)」。 3日目: スノーモービル体験 - 国際ルール で対抗雪合戦 - 物産館で各自昼食 - 解散式。

ア 春のトライアル・ツアー(平成18年5月14日[日]~16日[火])

ツアー参加者数は38名、参加者の内訳は、当プロジェクト事務局が5名、自らの参加意志を持って応募した者は推定で5名程度、東京農工大学のご紹介で参加した学生が1名、その他の



約27名は社会実験遂行上の業務指示により参加した者である(社会実験事業の正式な開始前であるため、日本通運側の休暇措置等の環境も確立できていない状況下でのトライアル・ツアーであり、参加者内訳としてはやむを得ない結果と言える)。

飯豊町滞在中の天候は初日曇り(10 強)、2日目、3日目快晴(20 強)であり、雨天などによるツアーメニューの変更はなかった。時間調整他の理由により一部ツアーメニューの追加が生じたが、当初の行程・内容は次のとおり。

<5月14日(日)>(しらさぎ荘泊)

池袋駅(7:45発) 福島・飯坂IC 米沢 飯豊町(13:30頃着)

飯豊町到着後、歓迎もちつき大会(昼食)、その後、バスと徒歩にて「ゆり園展望台」へ向かい、田園散居集落展望。さらに、庁舎前を經由して、ひまわり種まき体験(秋には搾油用の収穫)もしくは花の寄せ植え体験いずれかの農作業体験へ。終了後、しらさぎ荘へ(17:30頃)。しらさぎ荘では、山形・飯豊町の郷土料理を賞味。夕食後、希望者には



「語り部の会」(19:30～20:00)による郷土の民話等を披露。

<5月15日(月)>(フォレストいいで泊)

朝食(7:00～8:00)後、体験農場(8:15発)で田植え体験(9:00～16:00)もしくは大豆・いもなどの野菜作り体験(9:00～16:00)などの農業・農村体験(雨天時:そば打ち体験等田舎料理体験)。子ども達は圃場周辺でふきのとう・よもぎ・こしあぶら・たらの芽等の山菜取りを行い、この山菜を昼食のてんぷらの材料にする。昼食はこの他おにぎり・地元の漬け物・山菜が振る舞われた。終了後、フォレストいいでの木湖里館へ(17:00頃)。飲み物は各自用意して、歓迎夕食会。夕食は、グリーン・ツーリズム協議会メンバーを囲んで飯豊産の米沢牛でバーベキュー。

<5月16日(火)>

朝食後、オプションツアーに出発(8:00頃)。オプションツアーは、「日通の杜」散策コース(8:30～11:00、1,000円～別途費用)または「源流の森」体験コース(プロジェクトアドベンチャー・クラフト・陶芸、8:30～11:00、1,000円～別途費用)。物産館(道の駅)にて各自昼食(11:45～13:30)後、お買い物とデザートにイチゴ狩り(別途費用)。東京に向けて出発(14:15頃)、池袋着(19:30頃)、解散。

イ 夏のトライアル・ツアー(平成18年7月29日[土]～31日[月])



ツアー参加者数は39名、参加者の内訳は成人29名(男性21名、女性8名)、小学生10名(男7名、女3名)、事務局3名、家族参加8家族(20名)、単独参加19名。東京近郊からの参加は32名、仙台6名、山形1名、春夏連続参加8名(1家族=2名、単独参加4名、事務局2名)。飯豊町滞

在中の天候は3日共晴れ時々曇り、星空観察は曇り空のため中止した。

<7月29日(土)>(白川荘泊)

池袋駅(7:45発) 福島・飯坂IC 米沢 飯豊町(13:30頃着)

飯豊町到着後、歓迎もちつき大会(昼食)、その後、景観展望台まで移動し田園散居集落を展望(14:30～15:00)。展望台から「とんでん平ゆり園」まで散策後ゆり園で休憩(15:00～16:00)。バスにて中津川地区に移動後、雪室見学(16:45～17:1

0)後、白川荘へ(17:20頃)。山形・飯豊町の郷土料理を取った(18:00)後、スノーエッグフェスティバル会場で雪遊びと花火大会見物(19:30~21:00)。スノーエッグフェスティバルは、雪室に貯めた雪を使った真夏の雪祭りのこと。

<7月30日(日)>(白川荘泊)

朝食(7:30)後、農的暮らし体験場(2コース)へ出発(8:30~8:40)。田んぼコースは、夏の田んぼの草刈り作業体験(9:40~10:45)、野菜のもぎ取り作業体験(とった野菜を料理し昼食に、11:00~13:45)、竹細工体験(花瓶やぐい飲みを作りお土産に、13:45~15:30)のあと畑コースと合流のため、中津川地区の体験農場に向かう。畑コースは、じゃがいも収穫・そば種まき作業体験(8:50~10:00)、竹細工体験(昼食に使う竹皿作成、お土産に)、そば打ち体験(自分で打ったそばと収穫したじゃがバターで昼食)のあと「かやぶき民家」で農学講座(13:00~16:00)。その後、カブトムシやクワガタを集めるための仕掛け作り(16:10~17:00)。白川荘にて飯豊町の人々と懇親バーベキュー大会(16:30~)ののち、子ども向け星空観察、街灯昆虫とり(20:00~)。



<7月31日(月)>

朝食(7:00)後、「日通の杜」で、社員・大人向けに下草刈りなど森林ボランティア体験、子ども向けに昆虫採取・生き物観察(8:00~9:00頃)。白川荘に戻り、隣の川で川遊び・水泳、温泉など自由行動(9:00~10:40)。白川荘出発し(11:00)、日通

ひまわり農場にて生育状況観察(11:30~11:45)、物産館にて昼食・買い物・自由行動(11:45~13:15)。解散式後、東京に向けて出発(13:30頃)、池袋着(19:30頃)、解散。

ウ 秋のトライアル・ツアー(平成18年10月8日[日]~10日[火])



ツアー参加者数は47名、参加者の内訳は、日通グループ社員35名(男性29名、女性6名)、日通グループ社員家族2名、東京農工大学職員女性1名、大学生男性2名、中学生2名(男性1名、女性1名)、小学生4名(男児3名、女児1名)、幼児女児1名。事務

局5名、家族参加6家族(16名)、単独参加31名、東京近郊からの参加は35名、仙台5名、山形5名、福島2名。リピート参加者2回目=8名、3回目=10名、初参加=29名。家族でのリピート参加2回目=3家族、3回目=1家族。飯豊町滞在中の天候は、8(日)豪雨のため、「里芋掘り体験」から「そば打ち体験」に変更(雨天時運営予定の通り)、9(月)曇り後晴れ、10(火)晴れであった。

<10月8日(日)>(白川荘泊)

池袋駅(7:45発) 福島・飯坂IC 米沢
飯豊町(14:00頃着)
移動途中車中で昼食、飯豊町到着後体験農園へ。歓迎式のあと芋掘り体験(春に植えた里芋の収穫、~17:00)、終了後白川荘にて山形・飯豊町の郷土料理で夕食(18:30頃)。

